

いと やましかよしゆき
愛しの「じっちゃん」山鹿良之

映画『琵琶法師 山鹿良之』

銀座日本ライトグループ 長嶋 建人

1992年はバルセロナオリンピック、若い岩崎恭子が金メダルをとり、日本中が歓喜に沸いたあの暑い夏、私たちは小栗判官照手姫ゆかりの地である藤沢市の「遊行寺」に居た。『琵琶法師 山鹿良之』の最終ロケである。令和の時代を迎えた今、大正、昭和、平成と九州一円を駆け抜けた僧侶であり、また琵琶弾きである我が愛しの「じっちゃん」山鹿良之師をここに紹介します。

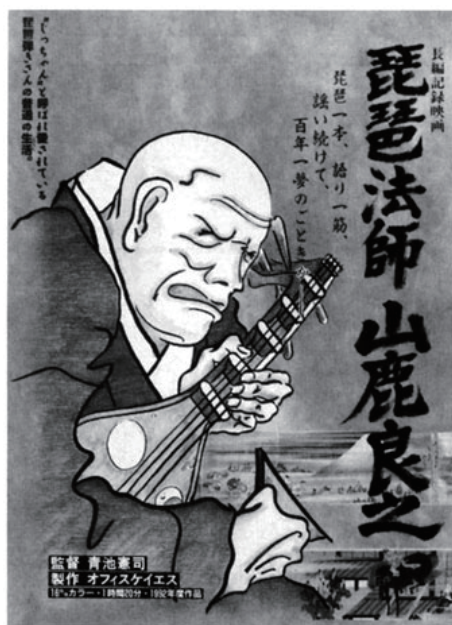
明治34年3月3日熊本県玉名郡南関町小原に生まれ、4歳で左目を失明し、22歳の時に江崎初太郎（玉川教節）に肥後琵琶を学び、また僧侶としての修行も積み重ねました。九州をくまなく辻説法をしながら「玉川教演」と名乗り、琵琶弾き芸人としても活躍しました。中でも『小栗判官／全七段』は得意中の得意、十八番の一説です。



自宅で演唱する【山鹿師】

私、長嶋健二（本名）はプロデューサーの石垣誠一氏と[株式会社オフィスKS]を立ちあげ、これまでに「愛知学院大学」のプロモーションビデオをはじめとして「企業PR」他数々のビデオ映像を製作してきました。

そこに映画『琵琶法師 山鹿良之』の企画が持ち上がりました。これまでにビデオ映像では製作主任を経験したものの、16mmフィルムでの製作



『琵琶法師 山鹿良之』ポスター

主任を経験したことはなく、是が非でも照明との二役を完璧にやり遂げたいとの一心で、この企画に参画しました。照明としては、長嶋建人というこれまでに使っていたネーミングを技師として使用しています。

『琵琶法師 山鹿良之』の企画意図としては、著名な映画監督マーティン・スコセッシ氏が語る「最も個人的なことは、最もクリエイティブなことだ」という指針をもとに、私なりに製作主任として携わりました。埼玉大学で芸術史の専門家 兵藤裕己先生や、邦楽研究家 ヒュー・デ・フェランテ氏の協力のもと、企画原案、構成案を何度も検討したものです。

撮影では[山鹿師]の日常生活を公私含めて献身的に支えて下さった地元の宮川光義氏や写真家の木村義夫氏ほか、さまざまな方のお力添えで出来上がりました。

飾り気のない「じっちゃん」の実像を少しでも自然のままにお伝え出来るよう、撮影方法や時間配分にも細心の注意を注ぎながら、90歳を超える[山鹿師]の人となりや生き方、またどのような辻説法をしながら、どんな語りをしていたのか…、より多くの方に伝えるにはどう撮れば良いのか…。何度も何度も議論を重ねながら、撮影を迎えることになりました。

この映画『琵琶法師 山鹿良之』は「ドキュメンタリー」でありながら「記録映画」。「記録映画」でありながら「劇映画」になっています。私は製作主任として、全体の「スケジュール調整」と「予算管理」兼「ドライバー」、また徹底したナチュラルライティングの照明技師と八面六臂の動きをせざるを得ない立場で撮影現場に携わっていました。この作品ではいかに効率的に、いかに短時間で内容のある画面を撮り込むかが、最大のテーマであり課題でもありました。幸いにも宮内庁から国の指定文化財でもある『小栗絵巻』をお借りすることができ、物語の骨格と縦軸がはっきりしたのがこの映画の見所になりました。



『小栗絵巻』(宮内庁提供)

いよいよ第一次ロケのスタートです。陸路九州は熊本まで車2台、スタッフ精鋭7名による日本列島大移動です。

[1991年11月26日] 午前11時

いよいよ九州ロケ出発。東名用賀ICから名神西宮を経て、阪神西宮経由魚崎まで600km弱の車移動。低気圧接近中のいやな天気予報のもと一路神戸へ向かう。神戸からは阪九フェリー神戸港20時40分発新門司行に乗り、新門司まで船による移動。その間にフェリー内で食事を済ませ大浴場での入浴。大揺れに揺れるもなかなかの気分。

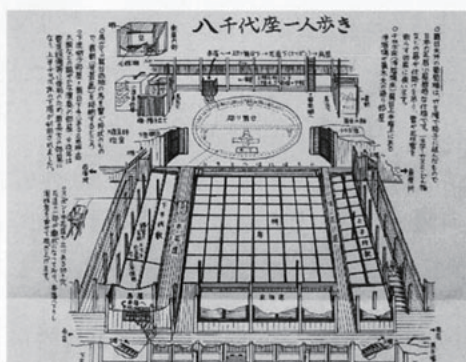
[11月27日] 雨

午前9時に新門司港着。九州自動車道小倉東ICから南関まで目指したものの、トンネル内事故のため大渋滞で大幅に遅れる。午後2時過ぎにやっと南関ICを通過し、山鹿市〔八千代座〕にロケハンのため直行する。公民館への挨拶も早々に〔八千代座〕内ロケハン。外景も含め撮影の段取りを打ち合わせて、車は旅館のある大牟田市大牟田駅前へ向かい、撮影機材などを旅館「六三亭」に降ろす。

大牟田駅前には今回の撮影中にいろいろとお手伝いして下さる宮川光義氏の実家、とんこつラーメンの店「東洋軒」があり、早速特製ラーメンをご馳走になる。非常に美味、あとで分かったことだが「東洋軒」は大牟田とんこつラーメン発祥の店だそうだ、どおりで旨い!

[11月28日] 小雨

予定を変更して午前11時、荒尾市〔荒尾公民館〕のロケハンに向かう。その後、雨の中での撮影開始のため、スタッフ用の雨カッパと長靴購入。午後1時〔山鹿師〕宅着。ガードレール等のバレ隠しをスタッフ総動員でセッティング。〔小原集落〕の情景カットならびに〔山鹿師〕宅の外景撮影をする。小雨の中しっとりとした〔小原集落〕が浮かびあがり実に綺麗だ。午後3時、インドアの撮影に入り、大阪から来ている弟子の片山氏を交えて稽古風景『小野小町』を押さえる。



「八千代座」パンフレットと手引き



自宅で稽古する【山鹿師】

[11月29日] 晴れ

早朝6時半、肥後琵琶の大師匠「堀京順」の墓や竹林の情景カットなどのオープン撮影をした後、【山鹿師】宅へ移動し、じっちゃんと共に山鹿市【八千代座】へ向かいセッティング。あの玉三郎も舞踊公演をお披露目したと言われる【八千代座】。舞台実景撮影後、いよいよ【山鹿師】演じる『小栗判官』序段～二段目の開始。「長い間お待たせを致しました…」愛用の琵琶を抱えながら張りのある声で、渋い語りが小屋全体に響きわたり、

独特な琵琶の声色が耳に心地良く聞こえてきます。【山鹿師】の感際まった時の表情が実に色っぽく味がある。まるで能面を見ているようだ。多少隙間が残る板戸のため、録音状態はあまりベストという訳にはいかないものの迫力ある琵琶の演唱には、ただただ感服の至りである。



日常生活撮影の合間に熊本日日新聞の取材を受ける【山鹿師】と私

[11月30日] 晴れ

午前7時半、早朝の「朝のお勤め」や日常生活を撮影。不自由な眼でも日頃のお務めを次々にこなしていく【山鹿師】の姿にびっくり。久々の太陽光の日ざしに四苦八苦しながらインドアの撮影をする。その後、外に出て【小原天満宮】ほか【小原集落】の夕景撮影後、午後5時半【荒尾公民館】へ移動。150名程の観客の前で『平家物語』を語る。慈悲慈哀の物語でもある『小栗判官』とはまた趣の変わった軍記物語『平家物語』は、源平争乱を語るもので表現豊かな表情と言魂をとらえることができた。

[12月1日] 晴れ

午前6時半、【山鹿師】宅付近のみかん畑から実景撮影後インドア、琵琶調弦のあと『小栗判官』三段目を演じてもらう。

午後2時半、久しぶりに「じっちゃん」と再会するお千代さんとのシーンを撮影。柳川ペリを散策するお二人の姿は何とも微笑ましい。その後今晚実施される【夜籠り】の会場である若宮神社でセッティング。夜6時ようやく【夜籠り】の撮影。いつものように張りのある声で『小栗判官』序段から三段目の前口上を述べたあと、『小栗判官』

四段目が始まる。少々夜風が冷たいものの元気に演じ切る「じっちゃん」の姿が実に美しい。10分程の休憩を取ったあと『小栗判官』五段目。外の寒さも吹き飛ばす熱演にお堂の中は熱気むんむん。ガンバレ「じっちゃん」。いよいよクライマックス五段目が終わった。お堂から三々五々に帰る柳川の人々のロングショットを撮影する頃、時刻はすでに午後9時近く。早々に機材を片づけると、柳川でお世話になった松本氏宅で夕食をご馳走になる。初めて口にする「ペラ」という貝と貝柱のお刺身、その「ペラ」を使った貝汁。それに「ソコ」と言われるヒラメによく似た魚の煮魚と、里芋など野菜の煮っ転がしなど…。美味しい肴に大吟醸酒「綾錦」…。本当に美味しいご飯をご馳走さまでした。

[12月2日] 晴れ

不足がちのフィルムを福岡まで購入に行ってもらう。その間撮影本体は刀塚氏宅で〔山鹿師〕による〔竈祓い〕への「ゴヘイ作り」ほかの準備風景撮影と、『般若心経』の読経シーンを撮影する。

午前11時福岡より無事フィルム到着。待望の新作フィルムによる〔なおらい〕を撮影。最後にお神酒が入ったところで『小栗判官』六段目、七段目の語りに入る。少々お酒の勢いでか言葉が不明瞭なのは残念ではあるが、後半はさすがにいつもの張りのある声と艶のある語りが戻ってきた。まずはひと安心。午後4時、第一次九州ロケはすべての撮影が終了。午後5時「じっちゃん」とお別れしたあと、一路新門司港へ向かい午後9時発のフェリーに乗船。翌年の春先か初夏あたりに第二次、その後第三次ロケを実施する旨決定。

[12月3日] 晴れ

神戸着。名神ICから小牧ICを経て、中央道で一路東京へ。午後7時過ぎ、オフィスへ無事ご帰還して第一次九州ロケ撮了。

無事第一次ロケも終了し、今後をどう仕上げていくのか検討した結果、第二次ロケは小栗判官、照手姫ゆかりの「遊行寺」や浅草「浅草寺」に参拝してもらい、最終段の語りをお客さまに聴いて

もらいながら撮影することになりました。場所は浅草「木馬亭」で、7月2日と翌3日の2日間に決定。さあ大変です！ ただの撮影ではなく本物の琵琶弾き語り公演です。チケットが売れるのか、満席になるのかと、ヒヤヒヤドキドキでした。



「遊行寺」小栗判官の墓前で読経する〔山鹿師〕



山鹿良之「オグリ」を語るパンフレット



「浅草寺」を参拝する〔山鹿師〕

[7月2日]

前売りだけでなく当日券を買い求めて長蛇の列。バトカーが2台も出動する大騒ぎ。撮影する前に汗だくのでんやわんやでした。

いよいよ開演です。「お見かけ通りのあぶれたおいほれにござります。その上生まれついでの下手。ひらにご容赦を…」多少肥後なまりの前口上の後、「べべべべ〜ん〜」。『小栗判官』の初段からの演目がどういう訳か『俊徳丸』^{しゅんとくまる}から始まってしまったものの、一声語り始まるや独特の声、艶と張りはさすがです。前日「遊行寺」で一節弾き語りをしていたせいか、満員立ち見の熱気に触発されたのか、我が愛しの「じっちゃん」完璧な熱演です。狭い会場で窮屈そうに身を乗り出して見ていたお客さんの反応も良く納得していただけた様子…。まずはひと安心。後半もこの調子で頑張ってもらいたい。「じっちゃん」の休憩中、大阪から参加の片山旭星氏が『小野小町』を演じる。若いだけあって声はでかいし音もでかい。

後半の『小栗判官』が開演される。前半の演目よりさらにパワーアップされたようだ。あの小さな体からどうしてこんな声が出るのかまったく不思議な感覚である。声色といい、艶といい、何と色気のある声なのか、長い年月を経て培われてきた[山鹿師]独特の芸風が、何とも心地良い感動を呼び起こす「いいぞ…じっちゃん！」思わず掛け声をかけたくなるようなノリだ。

21時30分過ぎ、予定より40分近く延長してしまった初日の公演が終わった。会場全体が地響きのような拍手の嵐、嵐、嵐。

楽屋に戻ると「じっちゃん」の大好きな爛酒でお疲れの乾杯…。「あ〜旨か〜」、今でもあの声は忘れられません。



[山鹿師] 満面の笑み



「木馬亭」で演唱する[山鹿師]

[7月4日]

羽田空港でお別れです。「じっちゃん、長嶋です。いろいろご苦労様でした。今度は大阪で会えるように計画中だからね…。それまで元気でガンバッテ下さいよ…。それじゃ僕は車があるから、ここでお別れします。」と言いながら肩を抱き、固い握手をして別れた。

今回の撮影では、照明設計的にもいつどんな時間帯でもすぐにシュート出来るように、メインの[山鹿師] 宅居間の天井部分にボールキャットでアイランプの300W スポット6台、150W スポット8台を四方八方に配置し、少しでもアングルの的にワイドになるよう、すべてのアイランプをアミではなく、シェードを使用することにし、スイッチ盤で切り換えが短時間になるようにセッティング。

メインライトはLOWEL IKQ 3台、デイシーンはレフにしてもミラーにしてもすぐに使用出来るようにあらかじめ配置しておきました。「じっちゃん」の予想もしない動きに四苦八苦しなから、よりナチュラルなライティングに仕上げられたのは、慌てず、騒がず、時の流れにまかせたのが救いになったようです。

16mm ビスタビジョンでの画角との闘いは、まさにライティング冥利につきました。

さあ仕上げです。今回の撮影は「16mm ビスタビジョン」のため、録音作業は「シネテープ」を採用し、より豊かな音作りを目指しました。

メインの「テーマ音楽」もオリジナルで作曲してもらい、アバコスタジオで音源を収録。さまざまなバージョンを用意し仕上げに入りました。

何度かのラッシュ試写を繰り返す中「じっちゃん」の話す言葉が分かりづらいので字幕スーパーを入れたらどうかという問題が発生しましたが、私は断固反対。日頃の生活での言葉もまるで弾き語りのように話す〔山鹿師〕の言葉にスーパーは必要ないと、最後まで説得を続けて事なきを得ました。

こうしてさまざまな問題をいろいろな方々の協力のもと無事完成した『琵琶法師 山鹿良之』は、何と1992年度「第47回毎日映画コンクール」記録文化映画賞、キネマ旬報1992年度文化映画ベストテン第4位の栄冠に輝きました。

この映画に携わったすべての皆さんのご協力とお力添えがあつての受賞だと思います。スタッフを代表して御礼申し上げます。

本当に「ありがとうございました」。

プロデューサー 石垣誠一

製作 長島健二

監修 兵藤裕己

演出 青池憲司

撮影 田代啓史

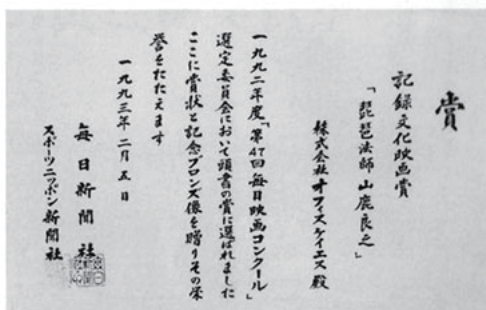
照明 長嶋建人

録音 永峯康弘

編集 村本 勝

音楽 織田英子


語り 石原 良 青池憲司



「毎日映画コンクール」記録文化映画賞賞状



【日本映画ペンクラブ】推薦状

	第4位
	琵琶法師 山鹿良之
	青池憲司演出
	オフィスケイエス
<p>プロデューサー=石垣誠一 製作=長島健二 監修=兵藤裕己 撮影=田代啓史 照明=長嶋建人 録音=永峯康弘 編集=村本勝 音楽=織田英子 語り=石原良、青池憲司 80分</p>	

「キネマ旬報」1993年2月下旬号「1992年度文化映画ベストテン」発表ページより